

序文のかわりに

この Booklet は、昨年二月に亡くなった門脇俊介さんへ捧げられている。UTC P の研究員である池田喬さんを中心に、かつて門脇さんの授業に出席していた旧学生たちの論考を集めて、ささやかながらここに一冊を上梓し、故人の霊に捧ぐ。

学問の世界においてもっとも重要なことは、世代そして時空を超えた知の対話であり、継承である。死という出来事がある機会となることは悲しいが、しかしどのような機会であれ、ある人の思考の忍耐が別の人に受けとめられ、真摯な反応が返され、そうしてその連鎖が続いていくということ以外に学問の希望はない。誰もが「志半ば」でたおれるのだが、その残りの開け放たれた「半ば」は後に続くものが引き受けなければならぬのだ。

だからUTC P という、その成立が大いに門脇さんに負っている特別な、非常の組織が、門脇俊介という一個の哲学者の仕事から出発した（開け）の場所を供することができるのは、悲しみに裏打ちされた悲愴な喜びである。ここに集められた論考の多様な広がり、その考察のレベルの高さ、哲学への強固な意志を思うとき、よい学生たちに出会えた門脇さん、大学教授として幸せだったなあ、と感慨が深い。

この本は、門脇俊介の（教室）である。存在と時間と信念と他者をめぐるセミナーの白熱する議論に耳を傾けていただければ幸い。門脇さんの肉声がかこかに響いているのを聞き取っていただけるだろう。

二〇二一年一月三日

UTC P 拠点リーダー 小林康夫